

処置内容	費用
初診・コンサルテーション料 (30分)	5,000円
分析・診断後のコンサルテーション (60分)	10,000円
資料採取得料 (レントゲン含む)	25,000円
クリーニング (大人) 15歳以上	10,000円
クリーニング (大人) 15歳以上 染め出し・ブラッシング指導含む	15,000円
クリーニング (小児) 14歳以下	5,000円～10,000円
唾液検査 (検査・分析・コンサルテーション)	5,000円
フッ素塗布	3,000円
レントゲン パノラマ	5,000円
レントゲン デンタル各種	1,500円

■ 修復

形成・印象料	20,000円/1本
ジルコニアクラウン (PFZ)	140,000円
E-Max 修復 (セラミック)	55,000～105,000円 (修復方法による)
金属修復 (白金加金)	65,000～115,000円 (修復方法による)
ポスト	10,000～15,000円 (修復方法による)
歯髄保存術	20,000～40,000円 (難易度による)
レジン修復	15,000～45,000円 (難易度による)
バイトプレート	45,000円～50,000円
プロビジョナルクラウン	5,000円

■ 根管治療

	抜髄	感染根管処置
前歯	60,000円	80,000円
小臼歯	70,000円	90,000円
大臼歯	100,000円	120,000円
隔壁		10,000円～20,000円
クラウン除去		10,000円
ポスト除去		10,000円

■ ホワイトニング

片顎ホワイトニング (トレイ・ジェル込み)	15,000円
全顎ホワイトニング (トレイ・ジェル込み)	30,000円
ホワイトニングトレイ片顎	2,500円
ホワイトニングジェル	3,000円/1本

■ 歯周治療/歯周外科

SRP	10,000 円/1 本
FOP (フラップ手術)	25,000 円/1 本
FGG (歯肉移植術)	50,000 円/1 ヶ所
FCG (結合組織移植術)	70,000 円/1 ヶ所
歯冠長延長術	50,000 円/1 本 2 本目から 25,000 円/1 本

■ インプラント

インプラント	約 400,000 円
--------	-------------

■ オプション

GBR (骨増生術)	50,000 円～
サイナスリフト (上顎洞挙上術)	120,000 円+材料費
ソケットリフト (上顎洞挙上術)	50,000 円+材料費
ソケットプリザベーション (抜歯窩保存術)	50,000 円

■ 抜歯

矯正時	10,000～15,000 円 (難易度による)
抜歯	15,000～35,000 円

■ 矯正

全顎	約 1,000,000 円
部分	300,000 円～

■ 乳歯

CR	10,000 円
インレー 形成・印象	5,000 円
インレーセット	15,000 円
クラウン 形成・印象	5,000 円
クラウンセット	20,000 円
生活歯髄切断法	10,000 円
抜髄	20,000 円
感染根管治療	20,000 円
抜歯	5,000 円

※費用は全て税別表記

私たちはこれらのことを予知性高く精密に行うことができます

医療費控除について

医療費控除とは、1年の間（1月～12月）に本人または家族が支払った医療費が10万円を超える場合、確定申告によって税金の還付を受けられる制度です。

医療費控除は、すべての歯科治療が対象になる訳ではありません。しかし、予防に関わる検診や審美性を求めるための矯正など以外の治療であれば、ほとんどが対象になります。

例えば、インプラント、小児矯正、保険適用外になる被せ物や入れ歯、骨移植、また通院の際のバス・電車代なども控除の対象です。

医療費控除額は次の計算式にて算出します。

$$\begin{aligned} &1 \text{ 年に支払った医療費} - \text{保険などで補てんされる金額} = A \\ &A - (10 \text{ 万円または、所得金額の } 5\% \text{ の少ない額}) = \text{医療費控除額 (最高 } 200 \text{ 万円)} \end{aligned}$$

この場合、10万円を超えた額がすべて還付される訳ではありません。これにご自分の所得税率を掛けたうえに、さらに定率減税分0.8を掛け、最終的な還付金額が算出されます。

当医院の価格について

私たちは、“物販”をしているわけではありません。

私たちは、培ってきた知識や技術を提供しています。

例えば一流の料理人や一流のスポーツ選手がそうであるように、彼らも並々ならぬ研究と研鑽を重ねた結果、それだけの価値を提供しているのだと思います。

一生懸命な、高い技術力は決して安くはないことは、歯科医療においても同様だということを知っていただきたいのです。決して横柄に申し上げているわけではありません。どのような消費にも、価値があるかないかが大切だと思います。